

概要報告

期 日： 平成 17 年 9 月 13 日（火）・14 日（水）・15 日（木）
会 場： 東京都千代田区永田町 1-1-1 憲政記念館
主 催： 財団法人海外日系人協会
後 援： 外務省、国際協力機構、国際交流基金、全国知事会、東京都、日本貿易振興機構、国際観光振興機構、日本経済団体連合会、日本商工会議所、海外日系新聞放送協会
参加国： 17 カ国 213 名

第 46 回海外日系人大会は、平成 17 年（2005 年）9 月 13 日、14 日、15 日の 3 日間、東京都千代田区憲政記念館、及び東京都新宿区 JICA 国際協力総合研修所において開催された。参加者は、中南米、アジア、ヨーロッパの 17 カ国から 213 名となった。

13 日の式典は、秋篠宮同妃両殿下、扇千景参議院議長、町村信孝外務大臣、北原悦男 JICA 理事の御臨席を賜り、盛大に開催された。14 日の代表者会議には、海外日系団体の代表者が集まり「新時代に挑戦する海外日系社会—その目標と課題」を総合テーマに、世代交代、人材育成、日本語教育、海外日系人大会の今後、国際日系ネット、日系就労者等について議論を行った。討議の末「第 46 回海外日系人大会大会宣言」がとりまとめられた。

大会期間中、参加者は、参議院議長、外務副大臣の招待によるレセプションにそれぞれ出席し、多数の国会議員、外交団、政府高官等と交歓した。

大会第 1 日目 [9 月 13 日（火）]

● 運営会議・ユース会議 ●

午前 10 時から 11 時 45 分まで、憲政記念館第 3 会議室において海外日系団体代表者、海外日系人協会役員、およびオブザーバーとして外務省、国際協力機構の参加を得て「運営会議」を開催した。この会議は、海外日系人協会と海外日系社会との連携をさらに密にするため、海外日系人協会の運営に関し、広く海外日系社会の意見を求めることを目的に、新たな試みとして本年度より実施した。

初めての開催となった本年は、湯川修介海外日系人協会事務局長より、海外日系人協会の事業運営にかかわる現状や見通しなどが説明され、海外日系団体代表者の方々と広く意見交換を行った。

また、同じ時間帯に憲政記念館第 1 会議室においては、県費留学生、県費海外技術研修員、JICA 日系研修員、JICA 日系留学生、日本財団日系留学生が集まり、「ユース会議」が実施された。参加した約 70 名の留学生、研修員たちは、6 グループに分かれて「日系次世代の果たす役割」をテーマにグループディスカッションを行い、

それぞれの意見を発表しあった。さらに、これを取りまとめた内容を、ユース会議代表者が翌日の代表者会議において発表した。

● 式 典 ●

午後2時00分、出席者全員が会場の憲政記念館に入場し、秋篠宮同妃両殿下を会場にお迎えして、開会式・式典が開始された。

はじめに、海外移住先没者に対する黙祷があり、塚田千裕海外日系人協会理事長が開会の挨拶を述べた。次いで秋篠宮殿下よりおことばがあり、小泉純一郎内閣総理大臣の祝辞（長崎弘海外日系人協会副会長代読）、扇千景参議院議長、町村信孝外務大臣の祝辞と続いた。参加者総代としては、サイド君子コロラド日系人協会副会長が答辞を述べた。

式典の最後は、妃殿下への花籠披露で華やかに締めくくられた。春日正子（メキシコ）、安田美代子（アメリカ）、屋良恵（ボリビア）、Medina Lourdes（フィリピン）、松下江梨香（ペルー）、熊田和子（韓国）、川村郁代（パラグアイ）、中村悦子（オランダ）、安里エステラ・アレハンドラ（アルゼンチン）、Ellya Nakagawa（インドネシア）の皆さんが花籠にばらの花を挿した。最後にブラジル在住の下本千恵子さんが壇上に進み、この花籠を妃殿下に披露した。

2時45分、秋篠宮同妃両殿下はご退場され、式典の部は終了した。なお、式典に先立って、秋篠宮同妃両殿下に対し、谷崎泰明領事局長、北原悦男 JICA 理事、塚田千裕海外日系人協会理事長の同席のもと、サイド君子（デンバー）、吉元アルトロ（ロサンゼルス）、上原幸啓（サンパウロ）、大楯エツヨ（ベレン）、フェリックス・シンゴ笠松（アスンシオン）、水谷徹（ブエノスアイレス）、バンバン・バスコロ新田見（ジャカルタ）の6名がご面談した。

● 全 体 会 議 ●

午後3時00分からは全体会議に移った。石丸和人海外日系人協会常務理事の司会進行で、議長団に河村建夫衆議院議員、高野博師参議院議員、長崎弘海外日系人協会副会長が選出された。

最初に、塚田千裕海外日系人協会理事長が海外日系人協会の事業報告を述べた後、谷崎泰明外務省領事局長、国際協力機構北原悦男理事がそれぞれ所管事項の施策を中心に挨拶をされた。会議では翌14日に開催する代表者会議で採択される「大会宣言」を本大会の「大会宣言」とすることが承認された。

その後、第2回海外日系文芸祭賞受賞者発表があり、同大賞受賞者の大楯エツヨさん（ブラジル）が代表してあいさつを行った。引き続き、海外で発信する日本語メディアを対象に、海外日系新聞放送協会が募集した海外日系新聞放送協会賞の発表も行われた。同大賞は日米タイムズの特別企画「日米間の架け橋は誰がなる」、キャンペーン・企画・連載部門はロッキーマウンテン時報の「コロラドの日本人 その歴史」、ニュース部門賞はマニラ新聞の「イスラム過激派投獄中反乱をめぐる一連

の報道」、ニュース部門努力賞にはじゃかるた新聞の「世界を揺るがしたアチエ地震・津波の災害報道」と、ニッケイ新聞の「ブラジル日本文化協会役員選挙」、写真部門にはボイス・メールの「一枚の写真 悲惨な津波に襲われて」、広告部門には北米毎日新聞の「広告特集・北カリフォルニアの病院」が、それぞれ受賞した。

● アトラクション ●

午後4時30分からは、お琴演奏「生田流 牡丹会」の公演が行われた。「さくらさくら」など日本ならではの曲や懐かしい童謡だけでなく、ポップミュージックや歌謡曲のアレンジなど約40分にわたり熱演し、会場には演奏にあわせて歌を口ずさむ声が響いた。

● 海外参加者交流・歓迎会 ●

午後5時30分から海外日系人協会塚田千裕理事長主催の大会参加者交流・歓迎会を憲政記念館会議室で開催した。

塚田理事長による歓迎の挨拶の後、来賓を代表して後藤博子参議院議員の祝辞があった。その後、参加者からはヘル・サントソ衛藤「ヤヤサン福祉友の会」理事長が謝辞を述べ、乾杯の音頭を村井宗明衆議院議員が行った。アトラクションとして演歌歌手の井上祐見さんが「Sou Japonesa」を披露した。その他、来賓多数の参加を得て、国内・海外の参加者約300名が交流を深めた。

大会第2日目 [9月14日(水)]

● 代表者会議 ●

午前9時30分、会場となった東京都新宿区市ヶ谷のJICA国際協力総合研修所(IFIC)国際会議場において、代表者会議が始まった。参加者は海外・国内合わせ約134名であった。

主催者の挨拶、代表者会議要領の説明、出席者及び海外代表者の紹介を行い、その後、参加者から議長団を選出した。富田いくこ(アメリカ)、松本アルベルト(アルゼンチン)、二宮正人(ブラジル)氏らを選出され、必要に応じ英語、スペイン語、ポルトガル語の通訳を行いながら次の5テーマについて議論を行った。

1. 世代を超えた日系社会の形成
2. 海外日系人大会の今後とあるべき姿
3. 国際日系ネットの構築
4. 日系就労者への期待と支援
5. その他

最後に本会議の討議内容を「海外日系人大会 大会宣言」としてまとめ、採択さ

れた。

代表者会議終了後には同研修所会議室において記者会見を行い、採択された大会宣言について、湯川修介海外日系人協会事務局長が発表をおこなった。取材社はハワイのフリージャーナリスト、メイド・イン・ブラジルの2社であった。

● 外務副大臣主催レセプション ●

午後6時より、外務省飯倉公館で外務副大臣主催の海外日系人歓迎レセプションが開かれた。谷川秀善外務副大臣の歓迎の挨拶、塚田千裕海外日系人協会理事長の謝辞、上原幸啓ブラジル日本文化協会会長の謝辞などがあった。国会議員や参加国関係外交団らと1時間半にわたる懇談の宴となった。

大会第3日目 [9月15日(木)]

● 研修旅行 ●

午前9時30分、憲政記念館に集合した各国参加者は、バスに乗車しNHKスタジオパークを訪問。約1時間をかけて時代劇スタジオや体験スタジオ等を見学した。12時からバスで参議院議長公邸を訪れ、参議院議長主催の昼食会に出席した。同昼食会には、扇千景参議院議長をはじめ、角田義一副議長、溝手顕正、金田勝年、加藤修一、山東昭子、中島啓雄、山内俊夫、片山虎之助、後藤博子、渡辺孝男各議員(計11名)が出席した。

扇議長の主催者挨拶の後、参加者を代表してパラグアイのフェリックス・シンゴ笠松パンアメリカン日系協会副会長が謝辞を述べた。角田副議長が乾杯の音頭をとり歓談を重ねた。

その後、参加者一同はJICA横浜を訪問。海外移住資料館を見学した。かくして第46回海外日系人大会、3日間の公式スケジュールを全て終了した。

なお、15日には、代表者会議に出席されない方々を対象に、隅田川下り(浅草)、未来館(お台場)、皇居を見学する一日観光バスツアーを実施し、24名が参加した。

以上